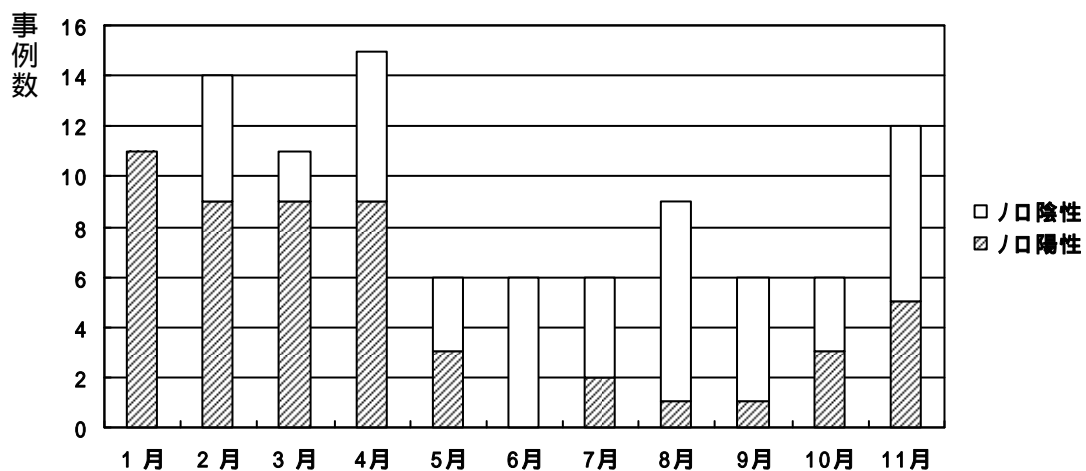


ノロウイルスによる胃腸炎

2008年1月から2008年11月に感染性胃腸炎として埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターに搬入された検体は22検体あり、検査が終了した19検体のうち11検体からウイルスが検出されました。検出されたウイルスはノロウイルス5件、ロタウイルス4件、サポウイルス1件、アストロウイルス1件でした。

10月以降、ノロウイルスによる集団胃腸炎の発生が増加しています。下図に2008年1月からの集団発生検査事例数を示しました。また、以下にノロウイルスの特徴をまとめました。

- 1 毎年10月～4月頃にかけて集団感染事例が多発します
- 2 多様な感染経路を持っています（食中毒、接触感染、飛沫感染、塵埃感染）
- 3 感染力が強く、10コ～100コのウイルスで感染が成立します
- 4 環境中で強い抵抗力を示します
- 5 不顕性感染があります（消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用してください）
- 6 感染者、不顕性感染者とも多量のウイルスを糞便中に排出します
激しい嘔吐の際には嘔吐物中にもウイルスが排出されます
- 7 感染すると1か月近くウイルスが糞便中に排出されます
症状消滅後も、成人で約2週間、乳幼児や高齢者では約3週間、多量のウイルスが排出されます
- 8 多くの遺伝子型があり、何度でも感染します



2008年の集団胃腸炎検査事例数（県分のみを集計）